

2023 年度 OHANA 事業計画書

一般社団法人 OHANA

長引くコロナ禍に加え、ロシア・ウクライナ戦争の影響により、通常の日常生活に必要な光熱費、食材の値上がりによって、国民は更に経済的、精神的に余裕のない生活を余儀なく強いられている。

2020 年から続く新型コロナウイルス感染症対策として非対面やテレワーク導入にされたが、貧困状態にある人々は必要な端末を購入すらできず、本当に苦しい生活を強いられ、社会との分断が増々進んでいる。更に、軍事費等の増税や政治家や著名人の不祥事が続き、性暴力被害者支援は隅に追いやられるか、不誠実な支援団体や政治家のプロパガンダとして利用されがちな社会に突き進んでいる。その為、被害に遭ってしまったにも関わらず、誰かに相談することすら迷ってしまう人が今までよりも非常に多くなる見込みである。このような苦しい状況下で、当団体は自分達が住む地域の一般の方々や市民団体、企業が民間のネットワークを広げてきた。しかしながら、こうした元来のネットワークのように、ある一部の人達だけが知っているネットワークではなく、地域に住む全ての人が周知し、利用できるネットワークを構築していく必要がある。当団体では、地域の誰もが安心して、また守られる優しい地域社会の実現を目指し、今年度も「ものづくり」をツールとして、様々な分野の団体と連携し、あらゆる性被害の潜在化防止と防犯、孤立防止に努めていく。

また、感染症対策を徹底しつつ、ハンドメイド作品の制作だけでなく、ハンドメイド資材に使用するお花を畑で育てていく事で屋外へも飛び出し、健康的な生活リズムづくりもできる「青空相談窓口」にも挑戦していく。畑仕事にも挑戦していく事で、古くからいる地元の方とネットワークを広げ、s 誰も取り残されることがない優しい地域を更に広げる活動を進めていく。

1 ものづくりをツールとした居場所づくり事業

- ・ものづくりを通して、自分自身の気持ちを「形」として表現していく場づくり。
- ・自分の作った作品を通して、トラウマと向き合う場づくり。
- ・完成した作品を地域イベントに出店する事で地域社会との繋がりと、地域社会に出るきっかけの場。
- ・専門の支援員が在中する「ものづくりの場（アトリエ）」を提供することで、安心して滞在できる「居場所」の確保。
- ・ハンドメイド資材に使う植物を育てる屋外作業を取り入れ、健康的な生活リズムを取り戻し、二次被害を乗り越える為の強い心の育成の場の確保。
- ・植物や作物を育て、収穫できる農業体験。

- ・販売できるハンドメイド小物雑貨、アクセサリーのスキル習得支援。
- ・自分の作品を販売するためのネットショップ構築の為のスキル習得。
- ・パソコンの基本操作（ワード、エクセル、パワポ）のスキル習得支援。

2 ソーシャルワーク研究会の開催。(二か月に一回)

- ・誰も取り残されないソーシャルワーク構築の為の基盤作り（横の繋がり強化）と人権啓発。
- ・支援者の為の息抜き、情報交換の場作り。
- ・イベントや勉強会の企画と運営
- ・支援員のスキルアップ、及び人材育成の為の事業

3 週末緊急宿泊シェルター事業

- ・行政などの公的窓口が休日となる土日、祝日でも宿泊することができる場所の確保。
- ・各種相談機関への同行支援。
- ・関係機関との連携と情報提供。